

Title: 「潜水するひつじ」



高橋 知佳  
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

● 最近のエントリー

- ☐ 即席、トンパ文字講座 (2009.07.27)
- ☐ 麗江古城 (2009.07.27)
- ☐ 成都、ちょっとオタクツアー (2009.07.24)
- ☐ 7月22日、成都、職転 (2009.07.24)

● アーカイブ

- ☐ 2009年10月
- ☐ 2009年09月
- ☐ 2009年08月
- ☐ 2009年07月
- ☐ 2009年06月
- ☐ 2009年05月
- ☐ 2009年04月
- ☐ 2009年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

潜水するひつじ > 2009年07月 アーカイブ

09.07.27

■ 即席、トンパ文字講座

[Tweet](#)

[Check](#)

ナシ族の文化として有名な、トンパ文字。



トンパ文字は現在、世界で唯一とされる生きた象形文字、らしいです。

トンパ文字において女は同時に大きいという意味を持ち、男は小さいという意味を持っているらしく、ナシ族が母系社会だということの証明もなしています。

そしてこの文字はトンパという、トンパ教の司祭が使うためのものなので、宗教色が濃かったりします。

そんなトンパ文字。



辞書を買ってみたので、せっかくなので幾つか紹介したいと思います。

そう、「即席☆トンパ文字講座」です！



"男"



"鬼が震える" どういう状況だ！





"足のある木の鬼" なにそれ。



"亡霊" 確かに恨めしげ？



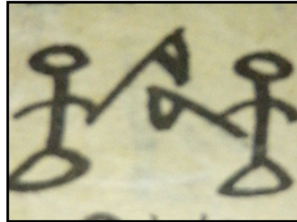
"招魂" 確かに爽やか？



"ライオン" しゃくれが気になる。



"羊毛" ていうか羊の断面図？



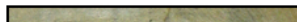
"大変良く座っている" 戦闘シーンにも見える。



"内蔵の一種" あいまいだな！



"心の乱れ" ていうか鼻息の乱れ？





“埋める” 絶対死神でしょ！！



“カツラ” 薄毛は人類の敵です。



“長寿” 枝毛？



“吹き出物” 足っすか。



“洗っても綺麗にならない” 今のわたしの靴下。



“怠ける” 今のわた...おとと！



“いざこざを引き起こす女” 誰のことかしら？

とても使い勝手が良さそうな文字ですね。  
さあ、早速明日から使ってみましょう！！

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.27 | [パーマリンク](#) | [コメント \(11\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

## 麗江古城

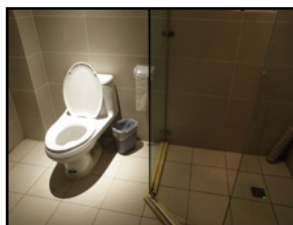
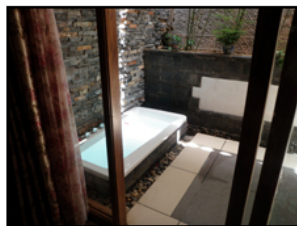
[Tweet](#)

[Check](#)

世界遺産でもある、雲南省麗江市の麗江古城に滞在しております。



古城、とは言えホテルはこのFW中で一番きれいで豪華です。



熱いシャワーはダバダバ出るし、FW後半戦初のドライヤーも付いてるし、部屋でネットもできるし...はい、はしゃいでます。笑  
はしゃぎついでにバルコニーのバスタブも、もはや露天風呂と割り切って入るべきなんじゃないか。花びらとか浮いちゃってますが。

このホテルは少数民族のナシ族の家族が運営していますが、  
どうやら2ヶ月前にオープンしたばかりらしく、  
「日本人のお客さんは初めて！」  
と、熊倉局長共々ちやほやされまくります。

「日本語教えてよ！」とか、  
「囲炉裡でナシ族のお茶入れるから、おいでよ！」とか、  
「高校の同級生で会食するから一緒にどうぞ？」とか。

オーナーの甜さんは、古城の名物である水車の設計をした人でもあります。



ブログ作業中！アいたろ、差！うもに「麗江古城」という名物や菓子を持ってきてアいたろ！



ブログ作業をしていたら、左の穴に「麗江ババ」という石物の表「を写す」てくられたンゴシ  
て。



トニ、という可愛い子犬も飼われていたり。



ホテルの目星は一切つけずに麗江にきましたが、まさかこんな当たりホテルを見つめられると  
は、っていうくらい居心地良いです。

ただ麗江古城自体は観光地化しすぎて、私のテーマにはちょっと厳しいです。  
物価高くせに、ATMは一回につき1000円までしかおろせませんし。

そんな麗江。麗江には、1週間の滞在です。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.27 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

09.07.24

## 成都、ちょっとオタクツアー編

[Tweet](#)

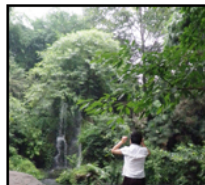
[Check](#)

国破れて山河あり、の律詩で有名な"詩聖"杜甫の草堂が成都にあるので、行ってきました。



この草堂一帯は中国文学上の聖地とされているらしく、国内からの観光客の多さに驚かされま  
す。

↓中には滝に向かって体操する強者も。





なにやら酔拳的な杜雨。

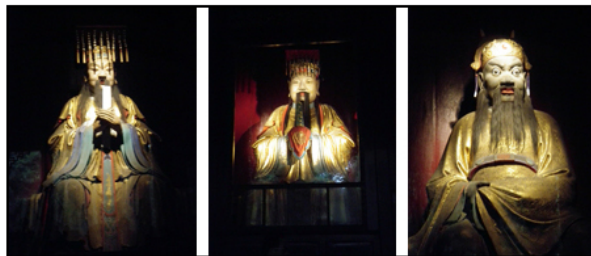


なにやらモダンな杜雨。



杜雨は生前はあまり評価されていなかったで、いま、こんなテーマパークの主役のようにになっている自分を見たらびっくりするんじゃないだろうか。

そしてお次は三国志、蜀の博物館へ。



左から関羽、劉備、張飛。  
言わずと知れた蜀の皇帝劉備と、その側近ふたり。

しかし彼らよりも華々しく、わざわざ別の建物に祀られていた方がこちら。



軍師、“伏竜”諸葛亮。

孔明人気はやはりすさまじい...  
呉の周瑜が一番好きな私としては、周瑜の評価を貶めている原因たる孔明には、  
ちょっと苦々しい気持ちなんだけれども。  
なんで小指立ててんだって突っ込みたくなるんだけれども。  
結局のところ、史実よりも三国志演義か。



もうひとりの軍師、“鳳雛”龐統。



五虎大將軍のひとり、趙雲。

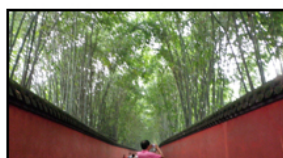


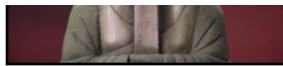
関羽の息子、関興。



張飛の息子、張苞。

他にも多数の武将の像が許られていたけれど、省略。  
蜀だし。呉じゃないし。笑





あ、呉の主要武将一覧発見！

孫瑜	孫桓	周瑜
魯肅	呂蒙	程普
黃蓋	韓當	蔣欽
周泰	陸遜	甘寧
凌統	潘璋	朱然
賀齊	呂岱	呂範

映画でにわかにもプームを巻き起こしてしまっている、赤壁の戦いの図も。



しかし蜀って本当に小さい国だったんだなー。

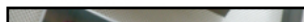
魏	人口 443万人
	兵隊 20～50万人
蜀	人口 90～94万人
	兵隊 8～12万人
吳	人口 230～240萬
	兵隊 15～20萬人
三國疆域及人口概算圖	

そりゃ、周瑜も天下二分の計となえますわ。

日本の名作の展示も。



そして私になによりも感動した展示。  
人形劇三国志の人形！！







やっぱり孔明の人形しかないのが不満だったけど、まさか成都でこの人形を見ることができるとはー！という感じ。

冊子ではちゃんと、周瑜のページが開かれてたし。



そういえば、劉備は中国語で書くとこうなるらしい。



イ...イメージがっ！

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.24 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラッキングバック \(0\)](#)

[濃水するみつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

## 7月22日、成都、暗転

[Tweet](#)

[Check](#)

台湾で買った腕時計を、200円で売ってくれと言われたラサ。  
標高5000メートル近くでヤクに乗ったラサ。  
民族舞踊を観に行ったら、なぜかダンサーに気に入られたラサ。  
「じゃあ帰る」作戦で値切り倒したラサ。

突き抜けるような、空の青を持ったラサ。





サヨナラ、ラサ。

そして再び、どんより雲の成都へ。



どうやら成都の空が晴れ渡ることなんて、茶柱100個分くらい運を使わないと無理なようで。「これじゃあせっかく皆既日食エリアでも、なんも見えないだろうなあ」と、22日は朝から諦めムード。

それでも一応外出てみるー?とゆうきちゃんとオリンパスを片手に街を覗くと、



暗いじゃないか!!!  
こんなに暗くなるものなのか、皆既日食!!!



闇が薄れ、再び街は動き出す。

午前9時、数分間の天の岩屋戸。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.24 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

09.07.19

プーターラーコン

[Tweet](#)

[Check](#)

プターラーコン = ポタラ宮の中国語読み  
ゆうきちゃんいわく、私のプターラーコンの発音は完璧らしいです。  
なにせ聖地ハンターですからね！



写真じゃわかりにくいと思いますが、ポタラ宮の入場チケットは無駄に3D仕様でした。

「儲かるといふ字を解体すると、信者になる」  
そう教えてくれたのは高校の恩師。



いままでたくさんの聖地を見て来ましたが、  
そうよねー、やっぱりポタラ宮といえど、そうよねー！という感じ。  
信仰心は、お布施をしなければ表せないものなんだろうか？  
バリバリの人間オンリーのアイテムであるお札が、魂の向上となんの関係があるんだろうか？

とりあえず千手観音の合掌に、1ドル札をはさむのはシュールすぎます。  
しかもガラスケースに入っている像だったから、明らかに管理者の仕業だ...  
ケースの内側にべたべたと各国のお札がきれいに貼付けられていたりして、  
「いや、そこまで露骨に訴えなくても...」  
と、それだけでなくも黄金色に塗られた装飾は、目をそらしたくなるのに。困ったものです。  
ちなみに上の写真のは別の仏像。  
ポタラ宮、内部は撮影禁止です。

「トモカも制限多くて大変だよなー」  
私の撮影を目の当たりにして、ゆうきちゃんが同情してくれました。



一方で藤原くんは、いつの間にか尼さんのグループに溶け込んでいました。さっすが！

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.19 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

09.07.18

## 成都～ラサ

[Tweet](#)

[Check](#)

チベットを訪問する許可証を成都で受け取らねばならなかった、今年。  
カトマンズ集合→成都1泊→ラサ4泊→成都1泊  
というスケジュール。  
しかもカトマンズ→成都間の飛行機は、途中でラサで一旦降り、そこで中国の入国手続きをして  
から飛行機に乗り直して、成都へ向かうというもので、  
「あ～明日も来るのかぁ～」  
とラサの空港をむなしく窓から見送りました。  
カトマンズで離陸が3時間遅れたことも響いて、成都のホテルでの滞在は12時間未満。

「せっかくの聖の都なのになぁ...」  
残念がっていたら、空港で発見。「張飛牛肉」！！



「たぶんこれは日本人の嫌いな味付だよ～」  
とゆうきちゃん。  
それでもみんなで試したところ、意外と美味でした。  
見た目はドッグフードみたいでしたが。

そして、飛行機はラサへ。



ラサは去年の暴動の関係でセキュリティが厳しくなり、外国人は必ず毎日ガイドと車を雇い、団体行動をしなければならないのですが。  
そのガイド、なぜか「Ms.Takahashi Tomoka」の紙を持ってお出迎え。



聖地ラサで、聖地をテーマにしている私の名前が掲げられている！これは偶然ではない！！  
なーんて、本気で思っているわけではありませんが。とりあえず記念撮影をバチリ。

そして予想に反して、良い感じのホテル。



しかも無料の無線LANサービス付き！  
「せっかくラサにきたことだし、チベットについてもう1回詳しく調べよう」と思い立ってグライ・ラマなどを検索したのですが、「なぜか」、ページが開けませんでした。残念！

そして更に予想に反して、都会的なラサ市内。  
そりゃ、山は映り込んできますけど。







ハリウッドスターも40円で上映されています。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.18 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

09.07.17

## 雲の上の地の麓の国

[Tweet](#)

[Check](#)

がやがや ブーパー 「アニョハセヨ」  
「タクシー？」 がやがや  
ざわ ざわ ブーパー  
「コニチワ！」 「チャイナ？」  
がやがや ブオォ 「500ルピー！」  
「あなたクリスチャン？」



喧噪のデリーもあつという間に過ぎ、ネパールへ入国。



穏やかに過ぎていくネパールの日々。  
外出する度になにかしらネタが生まれるインドとはえらい違いで、  
離れてみて、やっぱりあの国は濃かったなあと再認識。





おいしいツバ屋さんに連れていってもらったとき、  
見晴らしのよさに思わず「山が見えるー！」と声をあげたら、  
「違う、あれは丘だよ！」  
と現地の方に笑われました。  
やはり彼らの言う山はこいつら↓らしいです。



コックピットから見ました。エベレスト。  
分厚い雲の上になおもそりたつ山頂は、もう、  
人間よりも神様にふさわしい場所という感じ。



それでもあの場所に立ってしまう人間がいるという事実。  
宇宙にも行くし、海底にも潜るし...  
人間の馬力って未だ恐ろしい。そりゃ神様もバベルの塔崩したくもなりますわ。

そして気付けば、10カ国目中国入国！！  
「あれ？ ネパール、もう終わり??」  
ひゃああ。



しかし中華圏の夜空は、どうしてあも朱いんでしょう？

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.17 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[過去するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

09.07.05

## ブッダガヤ、摩耗編

[Tweet](#)

[Check](#)

「ねえ、I LOVE YOUって日本語でなんて言うの？」  
「.....アイシテル、だけど？」  
彼はその言葉を丁寧にメモまでし、口の中で何度も呟いて練習をし出した。  
「アイシテル、アイシテル、アイシテル」

「アイシタル、アイシタル...アイシユアイル...」

「ちなみにぼくの国の言葉だとね、ほよほよよ（もはや忘れた）って言うんだよ！ねえ、ちよつと調べてみて」

「.....ほよほよよ」

「もう一回」

「.....ほよほよよ」

「もう一回」

「ほよほよよ！（ヤケ）」

私が彼の写真を撮る10倍量、彼が私の写真を撮った。

「ねえ、ちょっとここに立ってみて！そう、そこ。よし、じゃあちょっと身体を斜めにしてみようか？...いいね！じゃあ次は髪を耳にかけて。...いいよ、きみはとってもラブリーだ！アッカンペーもしてみない？」

「NO!!」

そして撮った写真を満足げに見返しながら、こんなことを言った。

「きみが遠くへ行ってしまった後でも、ぼくがこの写真に向かって呼びかけたら、きみはすぐにぼくのところへ来てくれるかい？」

...私は正義のヒーローかっ！

「なにかプレゼントするよ。きみに似合う色はなんだろうね？」

露店で数珠を物色しだす彼。

黄と紫、2つの数珠のブレスレットが私の右手につけられた。

そしてそれとは別にパワーストーンで作られた首飾りを靴にしまいながら、

「明日はこの首飾りをプレゼントするよ」

と言う。

「...明日、は？」

もはや抗うことはできなかった。

翌日。

「約束通り、これをきみにプレゼントするよ！」

「...ありがとう」

「つけてみて。写真撮るから」

「はあ」

「あと、この後ネパールとチベットに行くんだろう？ 涼しい場所だから、なにかストールでも買ってあげる」

「え、いや、いいよ」

「んもう買ってあげるって！」

「...ありがとう」

「いいんだよ、きみはぼくのbabyだから。まったく、きみは一体ぼくのハートをどこに持って行こうとしているんだい？」

「...I don't know.」

「きみの瞳が欲しい」

「は？」

「きみの瞳を持って帰りたいんだ。せめてね。きみは遠くへ行ってしまうから」

「アハハ」

「ねえ、片方でいいから外して、ぼくにしてくれない？」

私はすぐに右目を外して彼に投げつける動作をしたけれど、私の想いとは裏腹に、彼は喜ぶばかりだった。

「んもう、おちゃめさんだね☆」

そう言って食べかけのアイスを私の口に近づける。

「食べなよ、おいしいよ」

「やめてよ！ お腹いっぱいだからいらない」

「明日が来るのが怖い」

「なんで」

「明日はきみが旅立つ日だから」

「はあ」

「でも、ぼくも明日の鉄道でデリーに行くから。もしかしら同じ列車かもね！」

「ソウナー」

そして彼は悩ましげなため息をついてこう言った。

「もっとも、ぼくはいまのこの時間が好きなんだけどね。きみがいて、ぼくがいる。この時間」

「はあ」

「きみも、この時間が好きって言ってくれるかい？」

「No.」

そして宣言通り、彼は青いバシュミナのストールをふたつ、私に買い与えた。

「あとこれ、ぼくの携帯番号。あっちには一応知り合いもいるから、困ったときにはすぐにかけるんだよ？」

「ありがとう」

見ると携帯番号の下には、ぶきっちなアルファベットで「Take Me To Your Heart.」と書かれていた。

見ないふりをしたかったが、すかさず彼が「アイシタル！」と口でも言うものだから、もはや空笑いするしかなかった。

「そういえば、あなたのお友達はどこ？」

話題を変えようと思って言っただけの質問だったけれど、

「ああ、彼はあと1時間は祈ってるんじゃないかな？」

との返答に、私は呆れた。

あなたは祈らなくていいの？ あなただって僧侶のくせに！

T国からはるばる修行に来た僧侶のくせに！

ナマグサ坊主とはよく言ったものだ。

まさかサンスクリット語のお経を読み上げるその口から、口説き文句も出てくるなんて。

私は予想だにしていなかった。

聖地ブッダガヤで、こんな顔似だらけの僧侶が修行しているなんて。

なんなんだ。コスプレか。修行というよりバカンスか。

彼の友達もストイックで、実際に位も高く、天上からの光がいかに似合いそうな、

私の袈裟萌え心をくすぐる素敵な僧侶なのに。

なぜあのふたりは友達なんだ。

スウィフトの奴婢訓にならって、彼をモデルに僧侶訓でも書いてやろうか、なんて思う。

菩提樹の前に座って、やっぱりあれやこれや愛の言葉を聞かされているとき、

つかつかと出家はしていないインディアン・ブッディストが寄って来て、

「きみは本当にブッディストかい！？」

と血相を変えて聞いていた。

「見ての通りだよ！」

と彼は慌てて自分の寝姿を誇示していただけだ。

私が内心「よくぞ言ってくれた！」とインディアン・ブディストに賞賛の拍手を捧げたことは、言うまでもない。



彼の希望通り、私たちは一緒に寝台列車だった。

しかも狙い済ましたかのように隣のブースで、廊下側のカーテンの隙間から彼が顔を覗かせるたびに、

私の神経は摩耗していった。はあ...

しかも局長とゆうきちゃんがいるのにも臆せず、なおもアイシテルを囁きやがる。はああ...

荷物をデリーの指定泊のホテルまで持ってくれたし、感謝しなければならないんだろうけれども。

道々「きみの心がほしい！」だの、あいもかわらず煩惱を隠そうともしない彼に、気持ちのこもったお礼の言葉を言うことはどうしてもできなかった。

ブッダガヤ。ブッダガヤ...

まあ、これもひとつの聖地の側面なんだろう。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[澁水するひつじ](#) > 2009年07月 アーカイブ

## ブッダガヤ、ラーフラ編

[Tweet](#)

[Check](#)

ブッダは修行の妨げになるとして、自身の息子にラーフラ（障壁）と名付けましたが、ここブッダガヤにおいて、私の撮影上のラーフラは、いかんともしがたい罫さ。

寺院内は帽子・靴厳禁なので、日差しに対してなんの防対策も打てず、目玉焼きが作れるくらいに熱を持った大理石の床は、もはや歩くことさえままなりません。そのため日中はホテルにこもり、比較的涼しい早朝と夕方に撮影を絞っています。

そしてブッダガヤで、私は撮影とは別にひとつの目的がありました。

それは「座禅を組むこと」！

別に仏教徒ではありませんが、手塚治虫のブッダといい、ヘッセのシッダールタといい、なんだかんだブッダがモチーフの作品が好きなので、やはりブッダガヤにいるからにはやっておかねければと。

日本寺で朝方5時から座禅が行われているという情報があったので、それを狙っていたのですが、なんと！ブッダがその木陰で雷りを開いたという菩提樹のあるお寺、大菩提寺で、いわば仏教の中心地のさらに中心地ですが、さらにそのご本尊の真ん前という中心地の中心地のさらに中心地ところで（くどい）、座禅を組むことができました！

15名ほどの僧侶に囲まれながら、1時間ほど。

まあ僧侶が合掌・平伏・読経に熱中している中、カメラのグリップを握りながら、ぎよるぎよる目を動かしてばかりいたので、実際組んたとは言えないんでしょうけれども。気持ちの問題です、気持ちの。







ちなみに大菩提寺の周りは恵比寿ガーデンプレイスを思わせる素敵な造りでしたが、一步越えるとバラナシのような雑然とした通りになって。なかなか可愛げのある街です、ブッダガヤ。



そうやってなにかと期当たりだったからでしょうか。  
私のもとに、ついに新たなラーフラが...!

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.07.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)